

農地プラン」の実質化が前提となっている。岳集落はそれを見越し、話し合いの場をつくった。澁谷喜壽さん(66)が経緯を説明してくれた。

「集落の農業を、次の世代につないでいくためには、まず集落全体の将来ビジョンを描き、その中に農業を位置付けなければいけないと思ったんです」

地域と共にあるJAだから

きっかけは、一八年に開かれた中山間地域をテーマとするシンポジウムに参加したことだった。

「そこで、中山間地域の課題解決を支援する県のプロジェクトが始まることを知り、モデル地区に手をあげたんです」と、谷口勝信さん(69)は言う。

佐賀県では、一八年度から五年計画で「それぞれの中山間チャレンジプロジェクト」をスタート。市町村が「チャレンジ集落」「チャレンジ産地」を選定し、地域の話し合いで課題の抽出や解決策の検討を行い、県や関係機関・団体が連携して支援する。それによって、農業・

農地の維持や農業所得の増大を図るというものだ。

岳集落は「チャレンジ集落」に選定され、その後、「人・農地プラン」検討会と称する集落ぐるみのワークショップを七回開催。課題の抽出や解決策を議論し、「岳集落の将来ビジョン」の取りまとめを進めている。

TACの川内さんは、JAグループ佐賀・県域担い手サポートセンター(JA佐賀中央会)と連携し、農業の世代交代をどう進めるかという課題にたいして、JA全農が作成した『集落営農組織版 事業承継ブック』世代を超えた話し合いのきっかけに『』を活用したアンケートを行い、世代間の意識の違いを明確にしたほか、集落における担い手へのアドバイザー的な役割を担ってきた。

「集落で共有されるビジョンの実現に向けて、地域と共にあるJAの役割は大きい。これからみんなの声に耳を傾け、提案活動を行っていきたい」

集落の未来への歩みがいま、TACと共にその速度を上げ始めている。

農業と集落の未来に向けて共に歩む

—— 佐賀県 JAさが

地域農業を次の世代に引き継ぐためには、世代を超えた話し合いを重ねることがたいせつだ。しかし、高齢化や人口の減少などで、住民が集まることさえ困難な地域もある。農業にかぎらず、地域活動や住民の暮らしのビジョンをどう描いたらよいのか。TAC(地域農業の担い手に出向くJA担当者)と共に話し合いを続ける集落を訪ねた。

下曾山弓子=写真 photo by Yumiko Shimosoyama JA全農TAC推進課=企画協力



写真左から澁谷さん、谷口重光さん、谷口勝信さん、TACの川内さん。
澁谷さんらもかつては兼業農家であったが、すでに定年退職して、集落活動に貢献している



ワークショップには 集落のほぼ全世帯が参加

別府大学の森宗一講師をコーディネーターに招いたワークショップは、テーマを決めて話し合い、女性だけ、あるいは世代ごとに班分けするなど、多様な意見が出やすい工夫した。毎回25〜30人、おしなべて集落のほぼ全世帯が参加したことになるといふ。運営は自主組織の「人・農地プラン運営委員会」が担うが、集落の役を交替で務める習慣があるからか、住民の参画意識は高いそうだ



将来像を描き
みんなで共有
しよう



JAさが

2007年4月、佐賀県内の8JA(佐城・佐賀市・諸富町・富士町・さが東部・神埼郡・佐賀みどり・白石地区)が合併し発足。8市8町に及ぶ広域JAで、さまざまな自然環境や立地条件を生かした多様な農業が営まれている。19年度、川内さんを含め3人のTACが佐賀みどり地区を担当し、それぞれ80戸の担い手訪問を目録に活動した。

事業承継ブックを参考に 親子の意識をアンケート

JA全農作成の「集落営農組織版 事業承継ブック ～世代を超えた話し合いのきっかけに～」に掲載されているアンケートを、集落の実態に合わせてアレンジ。親世代、子世代に分けてアンケートを実施した。親世代が思っている以上に、子世代は後継者になることを自覚していたことがわかるなど、世代間の認識の違いを確認できたという



JA全農のHPで
事業承継ブックを
公開中!

イラストはJA全農TAC推進課と地上編集部によるコラボキャラクター「TACマン」

佐賀県の中央部に位置する江北町。佐賀平野の豊かな水田地帯から、山間地へと差しかかるところに、棚田の風景が美しい岳集落がある。

「かつては炭鉱があり、地盤復元工事に伴い道路、水路、圃場整備も済んでいます。それでも、中山間地域ゆえに農地の維持は大きな課題になっています」

JAさが生産資材部肥料農薬課のTAC・川内辰彦さん(65)は言う。集落一八戸の農家のうち、認定農業者は一戸。その他は兼業農家だ。その一人、谷口重光さん(70)はこう話す。

「施策を地域農業の担い手に集中させた品目横断的経営安定対策(二〇〇七年度から)に合わせて、わたしたちも集落営農組織をつくりました。平野部の集落が多いなか、岳集落だけが中山間地域。農家も高齢化して、将来の農業はどうあるべきか、独自に考えなければいけないと思ったんです」

現在、農地集積バンクの助成措置といった支援を受けるには、担い手や農地利用の将来を地域での話し合いで描く「人・